



# 郷小だより

浜之郷小学校

1月号

2022. 1. 7



学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～  
 子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。



## 『新年のご挨拶にかえて』

校長 高橋 励

新年明けましておめでとうございます。  
 気持ちも新たに令和4年を迎えられましたこと、御慶び申し上げます。  
 (新型コロナウイルスの感染拡大状況が気がかかりますが…)



このフレーズに出会って、今年の箱根駅伝の実況アナウンサーが、一人一人の走る選手の姿にそこに至るまでの(プロセス)を重ね、その健闘をたたえながら語っていることに気づかされました。(結果は青山学院大学の圧勝でしたね)とかく結果のみに目が行きがちになりますが、わたしたちも教育活動の中で子どもの取組の過程にきちんと目を向けて語りたいと思いました。

そういえば、持続可能な開発目標(SDGs)のなかに「すべての目標を達成するために、すべての国・団体・



人々がパートナーとして一致団結して協力する。」という目標があります。他の16の目標を達成するため、「ともに」相手の立場を理解したうえで協力することが大切だということなのでしょう。

子どもは、未来を創り出す「そうぞうのたまご」。まだ見ぬものを想像し、新たな生き方を創造する力を培えるよう、ご家庭と地域と学校がともに協力していくことは本校の願いでもあります。今後とも、浜之郷小学校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

ところで、正月にテレビCMを見ていて、とても心に残るフレーズと出会いました。一つは「人生百年」時代。織田信長の時代には「人生五十年」と謡われ、昭和～平成にかけては「人生八十年」と言われましたが、令和の子どもたちはもっと長い人生を歩むことになるようです。サステナブル(Sustainable=持続可能)な社会の実現が求められるなか、学校は、「ウェルビーイング」(well-being=身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること。幸福。)な人生を送るための力がはぐまれる環境でありたいと改めて思う年の初めでした。

もう一つは「プロセスのわかる人になろう」というもの。最新のコンピュータをほめながらも、それを支える技術やアイデアを生み出したプロセス(=過程)に目が向かないオトナを見ながら「ぼくたちはプロセスのわかる人になろう」とつぶやくCM。